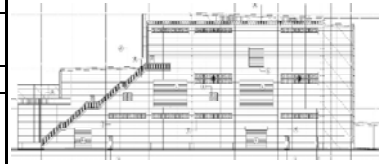


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜ゴム株式会社新城南工場#13	階数	地上3F
建設地	愛知県新城市一鍛田字大入10番24	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2016年8月30日
敷地面積	15243.6285(仮想敷地) m ²	作成者	中立良彦
建築面積	1,205 m ²	確認日	2016年8月30日
延床面積	3,157 m ²	確認者	中立良彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 0.0)	Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.2)	Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 2.5)
音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気環境: N.A.	機能性: N.A. 耐用性: 2.9 対応性: 3.4	生物環境: 2.0 まちなみ: 3.0 地域性: 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.9

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.0)	LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 2.8)	LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.1)
建物外皮の: N.A. 自然エネ: N.A. 設備システ: N.A. 効率的: 3.0	水資源: 3.0 非再生材料の: 2.7 汚染物質: 2.7	地球温暖化: N.A. 地域環境: 3.0 周辺環境: 3.2

3 重点項目

①地球温暖化への配慮	N.A.	③敷地内の緑化	2.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	59.5 %
				建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
②資源の有効活用	3.0	④地域材の活用	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし
				<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
 - LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
 - Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 - LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
 - Q-3 1 生物環境の保全と創出
- ④地域材の活用
 - Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能				-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-	-	-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	-	-	-
3.3 照度				-	-	-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-	-	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
2 アスベスト対策				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	4.0	-	-
3 バリアフリー計画	独自			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
3 衛生管理業務				-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				2.9	0.52	-	-	2.9
1 耐震性				3.0	0.48	-	-	-
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	-
3 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性				2.8	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	②			3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				3.4	0.48	-	-	3.4
1 階高のゆとり				4.6	0.31	-	-	-
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.60	4.0	-	-
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.40	3.0	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.31	3.0	-	-
1 空調配管の更新性				3.0	0.38	-	-	-
2 給排水管の更新性	②			3.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.17	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.11	-	-	-
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22	-	-	-
				3.0	0.22	-	-	-

階高: 7.25m
壁長さ比率: 0.159

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.5	0.30	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	-
				3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=		-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)				-	-	-	-	-
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水				3.0	0.15	-	-	3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				-	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-
				3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				2.7	0.63	-	-	2.7
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.24	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-		3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				1.0	0.20	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	ALC+躯体		3.0	0.05	-	-	-
				4.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				2.7	0.22	-	-	2.7
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32	-	-	-
1 消火剤				2.6	0.68	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				2.0	0.33	-	-	-
3 冷媒				3.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮	①	#DIV/0!		-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止				3.0	0.50	-	-	3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.50	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.2	0.50	-	-	3.2
1 騒音	独自			3.0	0.40	-	-	-
2 振動	独自			3.0	0.33	-	-	-
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				4.4	0.20	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			[光害対策が「トライ」のチェックの項目の過半を満たしている。	5.0	0.70	-	-	-
				3.0	0.30	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

横浜コム株式会社新城南工場#13ミサ-建屋増築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:59.53%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 横浜ゴム株式会社新城南

計画上の配慮事項	
総合	可能な限り緑地を配し、景観に配慮した。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくする事により、空間にゆとりをもたせている。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。 視線を遮らない様な植栽など防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	モニタリングによる効率的な設備運用とする。
LR2 資源・マテリアル	部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。
その他	